

新潟大学 遺伝子倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	性腺機能が精神疾患の難治化に及ぼす影響
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	2015年11月25日～2020年11月24日までの間に、 承認番号：2015-758 「性腺機能が精神疾患の難治化に及ぼす影響」 研究責任者：鈴木雄太郎 に同意をいただき、血液を採取された方。
③概要	現行の向精神薬治療には、薬物治療に抵抗を示す患者さんが一定数存在します。しかしながら、いまだ、精神疾患の難治化の機序は解明されていません。本研究では、近年、精神疾患との関連が示唆されてきている性ホルモンおよび関連する遺伝子多型に着目し、精神疾患の病態を明らかにしようとしております。現在まで、多くの方に遺伝子解析を行う研究への参加に同意をいただき、解析情報、医療情報などが本学内に蓄積されています。今回は、これら過去の「性腺機能が精神疾患の難治化に及ぼす影響」の研究で得られた試料とデータを継続して、同名の継続課題「性腺機能が精神疾患の難治化に及ぼす影響」に用いたいと思っております。
④申請番号	G2020-0024
⑤研究の目的・意義	本研究は、性ホルモンならびに関連する遺伝子多型や臨床情報を包括的に解析することで、精神疾患（うつ病、双極性障害、統合失調症、適応障害）と性ホルモンの関係を明らかにし、将来的には、精神疾患の診断、治療、予防などに役立てることを目的とします。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から2026年1月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	研究課題名「性腺機能が精神疾患の難治化に及ぼす影響」で同意をいただき採取した血液からDNAを抽出し、遺伝子の塩基配列を読み取ります。読み取った塩基配列を、精神疾患を発症された患者さんと、精神疾患を発症されていない方のデータと比較したり、臨床情報を解析に加えることで遺伝子の変化、違いを見出します。使用するデータは、個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	臨床情報（年齢、性別、治療歴、治療効果、血液検査結果等）および遺伝子解析結果。
⑨利用の範囲	新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野および新潟大学医歯学総合病院精神科

④ 試料・情報の管理について 責任を有する者	所属：新潟大学医歯学総合病院精神科 氏名：田尻美寿々 Tel：025-227-2213 E-mail：tajirimisuzu@med.niigata-u.ac.jp
④ お問い合わせ先	所属：新潟大学医歯学総合病院精神科 氏名：田尻美寿々 Tel：025-227-2213 E-mail：tajirimisuzu@med.niigata-u.ac.jp

※オプトアウト書式は、倫理システムの申請画面末尾の添付資料欄に掲載すると共に、  
[ethics@adm.niigata-u.ac.jp](mailto:ethics@adm.niigata-u.ac.jp)へ原稿をお送りください。ホームページに掲載いたします。